



## (第7期)まつもと子ども未来委員会市内見学の報告

令和3年8月31日

8月上旬に市内見学を行いました。8月2日(月)にSNSグループが松本警察署、4日(水)に環境グループが松本クリーンセンター、PRグループが松本市街地の周辺の井戸巡り、6日(金)にコロナグループがアルピコ交通本社を見学しました。

### SNSグループ 見学場所：松本警察署

松本警察署、生活安全第1課の方に SNS やインターネットを通じての被害などについてお話をしてもらいました。

- SNS 上のいじめや不正にかかわった子どもの人数(年間でどれくらい巻き込まれているか)

令和2年に SNS で事件に巻き込まれた18歳未満の子どもは全国で1,819人(高校生917人、中学生695人、小学生84人)。県内では18人(高校生12人、中学生6人)。警察で把握している数なので、もっと多いかもしれない。種類別では Twitter やインスタグラムがきっかけの被害が多く、他には、ひま部やティックトックなどが続いています。

また、SNS で特殊詐欺の受け子になった事件もありました。SNS で受け子の募集を見つけて応募し、その後少年は逮捕されました。「闇バイト」や「裏バイト」などと検索すると簡単に見つけることができます。昔は、先輩などが窓口となって紹介していましたが、今は SNS が簡単に犯罪の入り口になってしまっています。

- SNS による生活への妨げ、影響

ネット依存については、中高生の7人に1人は依存症。ゲーム障害の子どもたちは遅刻、不登校、成績低下、家庭内暴力という症状が半年の間起こります。1日に3時間以上ゲームをしている子は、成績低下や居眠りが起こります。「ネットを長時間使って、勉強も長時間する子」と、「ネットは使わないけれども、勉強を30分くらいしかしない子」はどちらのほうが成績優秀だと思えますか?正解は、ネットは使わないけど、勉強も短時間の子!ネットを長時間使うことは、勉強時間が長くても成績が低下するといわれています。

- みんなにすぐできること

相手のことを考える、悪口や差別をしない、あおること(「いいね」など)をしない。など簡単な当たり前のことを守ること。



## 環境グループ 見学場所：松本クリーンセンター

松本市役所環境業務課の方に、施設内の見学と説明をしてもらいました。

### ・処分の方法、処分の後どうなるか

松本クリーンセンターでは、松本市、塩尻市、山形村、朝日村の2市2村のごみを処理しています。処理の方法：可燃ごみは可燃ごみ処理施設で焼却され、燃え残った灰は最終処分場で埋められます。破碎ゴミ、粗大ごみはリサイクルプラザの破碎機で、細かく砕かれます。その後、燃える部分や金属などに分けられ、燃える部分は可燃ごみ処理施設で焼却、金属類はリサイクルされます。容器包装プラスチックは容器包装プラスチックリサイクル施設で、リサイクルできないものを取り除き、フィルムでサイコロ状にまとめられ、再生工場へ送られます。

### ・プラスチックの排出量、毎日のごみの量の平均、ゴミを燃やした時のCO2排出量

可燃ごみは一日約300トン（夏場が一番多い）、破碎ゴミは年間約400トン、粗大ごみは年間約2,200トン、プラスチックごみは、年間約900トン、回収、処理されています。CO2は年間約4万600トン排出されています。

### ・ゴミを燃やすための費用

ゴミを燃やすための焼却炉は一度火を止めて、点火するのに灯油を約3,000リットル使い、灯油の価格を1リットル100円とすると30万円が点火の費用にかかります。一度点火すれば、ゴミを絶えず焼却することで、燃え続けます。

人件費なども含め、クリーンセンターを維持管理するために年間10億円かかっています。

### ・可燃ごみの焼却の流れ

ゴミ収集車で集められたごみをゴミピットへ溜めます。その後クレーンでかき混ぜられ、焼却炉で燃やされます。ゴミは6階から2階の高さまで運ばれ約4時間で灰になります。その際に出る高温の熱を使って蒸気を発生させて温水を作ったり発電をしたりしています。温水は隣のラウラ松本のお風呂や温水プールに使用され、発電された電気はラウラ松本とクリーンセンターの電気に使われています。また、余った電気は電気業者に売っています。



## PRグループ 見学場所：松本市街地井戸

炎天下だったこともあり、時間短縮のため、2つのチームに分かれ全部で9か所の井戸の見学をしました。

### ・見学した井戸

Aチーム：東門の井戸、辰巳の御庭、なわて若がえりの水、蔵の井戸、源池の井戸

Bチーム：女鳥羽の泉、槻井泉神社の湧水、鯛萬の井戸、北門大井戸

### ・井戸の説明、歴史

源池の井戸：市内の名水の一つで、城下町が形成される以前から飲料水として使用されてきました。天保14年（1843年）に書かれた「善光寺道名所図会」には、「当国第一の名水」とあります。松本の酒造業者は、みんなこの水を使い、歴代の城主は不浄を禁ずる政令を出し、この清水を保護したといわれています。

槻井泉神社の湧水：薄川、湯川の複合扇状地の先端に位置するこの地一帯は、豊富な湧水や湧泉がみられます。この湧水もその一つで、古くから人々に親しまれており「清水」の地名の由来になっています。江戸時代からこの水を利用して、染色・製紙が行われていました。

鯛萬の井戸：大正11年、生活密着の井戸として料亭「鯛萬」によって掘られました。その後、平成15年鯛萬井戸公園として整備され、深度30Mから50Mに深く掘られました。

### ・飲み比べ

味などはわからないけど、冷たいほうがおいしいと思った。

### ・成分表

女鳥羽の泉と槻井泉神社の湧水にはなかったが、他の井戸は近くに成分表が張り出してあり、源池の井戸は令和3年2月16日、他は令和2年9月15日の検査の結果となっていました。

水温：最低 13.1℃（鯛萬の井戸） 最高 15.8℃（辰巳の御庭）

カルシウム、マグネシウム（硬度）：最低 71mg/L（鯛萬の井戸） 最高 93mg/L（なわて若がえりの水） WHOの基準では軟水に分類されます。

蒸発残留物：最低 140mg/L（鯛萬の井戸） 最高 230mg/L（辰巳の御庭）

蒸発残留物とは、水の中に浮遊したり溶解したりして含まれている物質の総量を表したものです。主成分はいわゆるミネラルで、カルシウム、マグネシウム、ナトリウム、などです。残留物が多いと苦みや渋みを感じるといわれ、適当に含まれるとまろやかさを出します。



## コロナグループ 見学場所：アルピコ交通

アルピコ交通株式会社の本社の方に、お話を聞きました。

バスは、路線バス、高速バス、貸し切りバスの3種類を運航<sup>うんこう</sup>していて、主に路線バスのお話をいただきました。

- ・感染レベルによる利用者の増減

利用はコロナ前の2/3程度となっています。通勤通学<sup>つうきん</sup>には利用するが、観光客が激減<sup>げきげん</sup>しているとのこと。路線バスより東京、名古屋、大阪などと結んでいる高速バスのほうが影響<sup>えいきょう</sup>は大きいとのことでした。

- ・主な対策について

空気の入替えは、バス停でドアを開ける時や、換気扇<sup>かんきせん</sup>や窓を開けての走行をするなど行っています。車両の空気は5分で全部入れ替わるようになっています。消毒スプレーやプラズマクラスターなども配備<sup>はいび</sup>しており、運転席にはビニールシートを設置しています。その他、マスクの着用や会話を控えてもらうように呼びかけを行っています。

バスが車庫に戻ってきた時には、人が触れるところの消毒や、運航途中も時間がある時は乗務員<sup>じょうむいん</sup>が手すり等の消毒を行っています。

- ・コロナが収束したら

もっとバスに乗ってほしい！

- ・コロナでの変化

換気や消毒に敏感<sup>びんかん</sup>になったお客さんが多く、乗客人数が多いと密になってしまうことなどを気にする人が多いとのこと。また、県をまたいでの往来や外国人が少なくなったとのこと。

- ・感染レベル別の対応を教えてください

感染レベル別での対応は変えていないとのこと、主な対策を常時行っています。

- ・ワクチンについて（職域接種など）

職域<sup>しょくいき</sup>接種<sup>せつしゅ</sup>などは行う予定はありません。社員個人で通常の接種をお願いしている。

- ・消毒の体験

最後にバスの手すりや吊り輪<sup>つりわ</sup>、降車<sup>こうしゃ</sup>ボタンなどの消毒を体験させてもらいました。

